

PAT-NO: JP408040087A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08040087 A
TITLE: TRAVELING WIND INTRODUCING MECHANISM IN VEHICLE
PUBN-DATE: February 13, 1996

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
KOBAYASHI, MICHIO

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
AICHI MACH IND CO LTD N/A

APPL-NO: JP06202884
APPL-DATE: August 3, 1994

INT-CL (IPC): B60K011/04, B60K013/02, B62D021/02, B62D021/17

ABSTRACT:

PURPOSE: To efficiently guide a traveling wind into an engine room in a vehicle such as an automobile.

CONSTITUTION: A traveling wind introduced into a side member 14 from a traveling wind introducing port 13 on a front surface of a car body 11, is blown into an engine room 18 by guiding it by plural curved surface guide plates 19A, 19B, 19C and 19D having respectively a concentric curved surface.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-40087

(43)公開日 平成8年(1996)2月13日

(51)Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 0 K 11/04	L			
	K			
13/02	C			
B 6 2 D 21/02	Z			
21/17				

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平6-202884

(22)出願日 平成6年(1994)8月3日

(71)出願人 390009896

愛知機械工業株式会社

愛知県名古屋市熱田区川並町2番20号

(72)発明者 小林 倫夫

名古屋市熱田区南一番町7番22号 愛知機械工業株式会社内

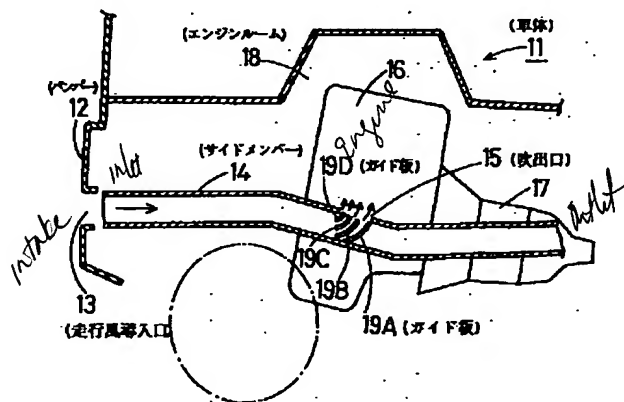
(74)代理人 弁理士 宇佐見 忠男

(54)【発明の名称】 車両における走行風の導入機構

(57)【要約】

【目的】本発明の目的は、自動車等の車両において走行風を効率良くエンジンルーム内へガイドすることにある。

【構成】車体11の前面の走行風導入口13からサイドメンバー14内へ導入した走行風を、夫々同心的な曲面を有する複数個の曲面ガイド板19A、19B、19C、19Dによってガイドしてエンジンルーム18内へ吹付ける。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】車体前面の走行風導入口からサイドメンバー内へ走行風を導入し、該サイドメンバーの所定箇所に設けられた吹出口から該走行風をエンジンルームに吹付ける機構であって、該サイドメンバーの吹出口には夫々同心的な曲面を有する複数の曲面ガイド板を配置したことを特徴とする車両における走行風の導入機構

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は自動車等の車両におけるエンジンルームを冷却するための走行風の導入機構に関するものである。

【0002】

【従来の技術】車両における上記走行風の導入機構は、図3に示すように車体(1)の前面においてバンパー(2)の下部に走行風導入口(3)を配置し、該走行風導入口(3)からサイドメンバー(4)に導入した走行風を、該サイドメンバー(4)に設けた吹出口(5)からエンジン(6)やトランスミッション(7)を収納しているエンジンルーム(8)内へ吹付けるものであるが、従来では図4に詳記するように該サイドメンバー(4)の吹出口(5)には平らなガイド板(9)を配置してサイドメンバー(4)内の走行風をエンジンルーム(8)内へガイドしていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら上記従来の走行風の導入機構では図4矢印に示すように走行風が吹出口(5)からエンジンルーム(8)内へ吹出す際、吹出口(5)の周縁およびガイド板(9)との衝突によってこの部分で渦流や逆流を生じ、走行風が効率良くエンジンルーム(8)内に導入されないという問題点があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は上記従来の課題を解決するための手段として、車体(11)前面の走行風導入口(13)からサイドメンバー(14)内へ走行風を導入し、該サイドメンバー(14)の所定箇所に設けられた吹出口(15)から該走行風をエンジンルーム(18)に吹付ける機構であって、該サイドメンバー(14)の吹出口(15)には夫々同心的な曲面を有する複数の曲面ガイド板(19A, 19B, 19C, 19D)を配置した車両における走行風の導入機構を提供するものである。

【0005】

【作用】走行風は車体(11)の前面の走行風導入口(13)か

2

らサイドメンバー(14)内へ導入され、該サイドメンバー(14)の吹出口(15)からエンジンルーム(18)内へ吹出されるが、この際該吹出口(15)に配置されている複数の曲面ガイド板(19A, 19B, 19C, 19D)によってガイドされる。該複数の曲面ガイド板(19A, 19B, 19C, 19D)は夫々同心的な曲面を有するから走行風との激しい衝突は起こらず、走行風は殆ど渦流や逆流を生ずることなくエンジンルーム(18)内へガイドされる。

【0006】

【実施例】本発明を図1および図2に示す一実施例によって説明すれば、自動車の車体(11)の前面において、バンパー(12)の下部には走行風導入口(13)が配置され、走行風は該導入口(13)よりサイドメンバー(14)内に導入される。該サイドメンバー(14)に導入された走行風は吹出口(15)からエンジン(16)やトランスミッション(17)が収納されているエンジンルーム(18)内へ吹付けられ、このようにしてエンジンルーム(18)は冷却されるが、この際該走行風は該サイドメンバー(14)の吹出口(15)に配置されている複数の曲面ガイド板(19A, 19B, 19C, 19D)によってガイドされる。該曲面ガイド板(19A, 19B, 19C, 19D)は夫々同心的な曲面を有しており、したがって図2矢印に示すように走行風は該曲面ガイド板(19A, 19B, 19C, 19D)に激しい衝突することなく、それ故に渦流や逆流を生ずることなくエンジンルーム(18)内へ効率良く吹付けられる。

【0007】

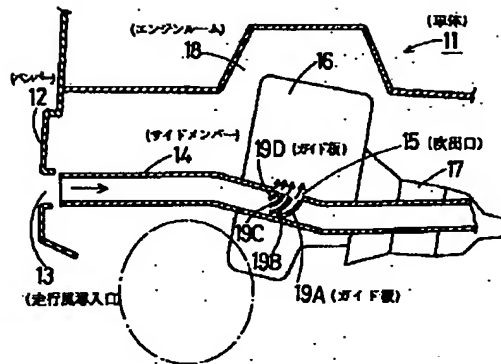
【発明の効果】したがって本発明では走行風を効率良くエンジンルーム内へ導入することが出来る。

【図面の簡単な説明】

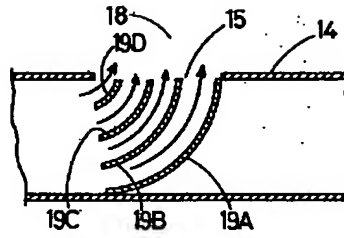
図1および図2は本発明の一実施例を示すものである。
 【図1】走行風導入機構部分断面図
 【図2】サイドメンバー吹出口付近の部分断面図
 【図3】従来の走行風導入機構部分断面図
 【図4】従来のサイドメンバー吹出口付近の部分断面図
 【符号の説明】

11 車体
 12 バンパー
 13 走行風導入口
 14 サイドメンバー
 15 吹出口
 18 エンジンルーム
 19A, 19B, 19C, 19D 曲面ガイド板

【図1】



【図2】



【図4】

